

過去をふり返り未来へつなぐために



四日市公害と環境未来館では、企画展「四日市公害判決50年展～過去をふり返り未来へつなぐ～」を、8月28日(日)まで入場無料で開催しています。

本企画展は、環境に配慮した展示を心がけています。一般的にはプラスチック製のパネルや金属フレームを用いる展示が多いの



ですが、今回は、環境に優しいダンボール素材を使用しています。

また、入口でダンボールを用いた展示はコミュニケーションシートを配布しています。展示から答えを探すだけで

なく、周りの人との対話を通じて、オリジナルの年表も完成させることができますので、ぜひご活用ください。

四日市公害を身近なこととして学び、家族や友人など、周りの人に話すことで当時の様子や想いを共有し、その歴史と教訓を未来へとつないでいきましょう。



コミュニケーションシート

☎ 四日市公害と環境未来館 (TEL) 354-8065 (FAX) 329-5792

「壬申の乱」 伝承の地 額突山

皆さん、「壬申^{じんしん}の乱」はご存じですか。672年に大海人皇子^{おおあまの}（後の天武天皇）とその兄天智天皇の息子・大友皇子が覇権を争った古代史最大の内乱です。乱の行程において大海人皇子は、吉野（奈良県）から逃れ、美濃（岐阜県）へ行く途中の6月26日の朝、朝明郡の迹太川^{と お がわ}の辺りで太陽神天照大神^{あまてらすおみかみ}を遥拝^{ようはい}したと『日本書紀』にあります。

市内には、この伝承地が各所にあり、大矢知地区に県史跡「天武天皇迹太川御遥拝所跡」があるほか、羽津地区には「天武天皇神宮御遥拝所」石碑があります。この石碑は、糠塚山^{ぬかづか}（異名：額突山^{ぬかづき}）の山頂にあり、大正4年(1915)

に建てられました。額突山とは、大海人皇子がぬかずいて拝んだ、という伝承から名付けられたとされます。また、山中には糠塚山古墳群があります。

現在は、市民緑地として遊歩道が整備され、山頂からは東に伊勢湾を望むことができます。一度訪れて、古代史のロマンを感じてみませんか。



東から見た糠塚山（額突山）

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873